

阿賀野市立吉田東伍記念博物館

友の会通信

2010-2011

No.1 (通巻58号)

2010.5.5発行

■ 目次	会長ご挨拶／初夏の研修旅行のご案内	1	平成22年度総会の報告	2～4
	会員随想『最近特に想うこと・・・』	5	特別寄稿『佐渡の能楽と能舞台』	6～7
	TME 第12回演奏会のご案内／サークルだより／編集後記			8

発行：吉田東伍記念博物館友の会 〒959-2221 阿賀野市保田1725-1 (阿賀野市立吉田東伍記念博物館内)
TEL 0250-68-1200 FAX 0250-68-5016 web版友の会通信 <http://wind.ap.teacup.com/togo/>

博物館HP http://www.city.agano.niigata.jp/togo_museum/index.html E-mail y.togo@oregano.ocn.ne.jp

新たな出発にあたり

吉田東伍記念博物館友の会会長 長谷川 明一 (はせがわ めいいち)

会員の皆様には、日々ご健勝でお過ごしのことと拝察いたします。今年の春は例年にない、寒暖の差が大きく、4月中旬には降雪を見る異常な天候で、桜の開花もいつもより遅い春の訪れでした。

去る4月17日(土)に平成22年度総会が開催されました。今年度は役員改選の年にあたり、再度留任し、会長の重責を担うことになりました。一部交替もありましたが、役員一同、初心に戻り、新たな気持ちで会の運営に励んでまいりたいと思います。

昨年度は友の会発足10周年記念事業として、様々な事業に取り組んでできました。なかでも第1回新潟県内博物館等友の会サミットを開催できたこと、博物館との各種共催事業に関わってきたことなど、一年を通して大変充実した活動が出来たと思っています。

今後も友の会のモットーである楽しく集い、かつ学び合える機会を目標に、歴史・民俗・芸術等の分野について、はば広く日々の生活の中から取り上げ、急がず、無理せず、持続した活動を通し、さらに魅力ある友の会となれるよう、役員一同がんばりますので、ご支援ご協力をお願いします。

初夏の研修旅行

史跡めぐり

～千葉県銚子市 吉田東伍終焉の地と利根川水系～

恒例の研修旅行は、友の会念願の吉田東伍終焉の地を訪ねます。吉田東伍は、大正7年(1918)1月19日に銚子の吉野家旅館で亡くなりました。『利根治水論考』を著した東伍が最後に眺めた銚子の風景を偲ぶ旅です。

期 日／7月5日(月)～6日(火) (1泊2日)

集 合／午前7時：新津地域学園 午前7時30分：阿賀野市安田体育館駐車場

行 程／7月5日(月) 7:00新津地域学園発 → 7:30安田体育館駐車場発 → 磐越道安田IC → 11:00水戸大洗IC (昼食) → 14:00銚子市内着～吉田東伍終焉碑(海静寺)・吉野家旅館跡・飯沼観音・犬吠埼灯台・地球の丸く見える丘展望館など(銚子ボランティアガイド「観光船頭会」のご案内で見学します)～ → 17:00 銚子ぎょうけい館着(夕食・宿泊)

7月6日(火) 9:00宿出発 → 銚子漁港・醤油蔵など → 11:00香取神社・霞ヶ浦水郷(昼食) → 13:00出発(帰路) → 19:00安田体育館着 → 19:30新津地域学園着

宿泊場所／銚子ぎょうけい館 (TEL0479-22-3600)

参 加 費／会員 26,000 円、非会員 28,000 円

※交通費・宿泊費・食事代(昼食2回・夕食)・保険料等を含みます。

※当日入会も可能ですのでご家族・ご友人などお誘い合わせのうえご参加下さい。

定 員／30名(先着順)

申し込み／6月24日(木)までに友の会事務局へ電話・FAX・メールでお申し込みください。

平成22年度総会の報告

4月17日(土)、平成22年度総会が開催され、約30名の参加がありました。阿賀野市教育委員会・田村仁教育長様(生涯学習課課長・吉野晴記様代読)より友の会へのメッセージをいただき、議事に入りました(議長・長谷川明一会長)。平成21年度事業報告・決算報告、平成22・23年度役員、平成22年度事業計画・予算について、慎重審議の結果、下記のとおり承認されましたのでご報告します。

なお、総会終了後、吉田東伍『世阿弥十六部集』発刊101周年を記念して、新潟大学人文学部教授・池田哲夫先生を講師にお迎えして、市民文化講演会「佐渡の能楽と能舞台」を開催しました。一般市民の参加もあり、約50名の聴講者一同、パワーポイントの映像を交えたわかりやすい講演に耳を傾けました。講演要旨を本誌6・7ページに特別寄稿いただきましたのでご覧ください。

今年度も博物館と手を携えて、会員数の増加を大きな目標に、研修旅行、TME演奏会などの事業を一つ一つ誠実に実施していきたいと考えています。会員の皆様のご参加をお待ちしています。
(事務局：小野里澄子、田中洋史)

平成21年度事業報告

期 日	内 容	参加者数
4月12日(日)	平成21年度阿賀野市立吉田東伍記念博物館友の会総会	30名
4月12日(日)	『世阿弥十六部集』発刊100周年記念 第1回『ビデオ講座 古典芸能シリーズ』鑑賞会(全5回)	30名
5月23日(土)	第1回 新潟県内博物館等友の会サミット(主管) オープニング・サロンコンサート	100名
6月3日(水)	第2回『ビデオ講座 古典芸能シリーズ』鑑賞会	16名
7月6日(月)	初夏の研修旅行 史跡めぐり ～与六のふるさと上田荘と南魚沼市「愛・天地人博」～	29名
8月1日(土)～8月30日(日)	夏休み子ども博物館 阿賀野市新指定文化財展	博物館協力事業
8月12日(水)	星空への招待 2009 ベルセウス座流星群観望会	雨天中止
8月28日(金)	とんと昔を聞く会	15名
10月20日(火) ～ 11月15日(日)	博物館特別企画展・新潟県立歴史博物館移動展覧会「天地人と揚北」 講演会：10月25日(日)「越後文書宝翰集にみる揚北」 講師：前嶋敏氏(新潟県立歴史博物館) 講演会・シンポジウム ：11月7日(土)「室町・戦国時代の揚北と上杉氏」 講師：森田真一氏(群馬県立博物館)ほか 体験プログラム：10月31日(土)「戦国武将の花押を作ろう」	博物館協力事業
11月9日(月)	秋の研修旅行 博物館めぐり ～米沢市上杉博物館「米沢 愛と義のまち天地人博 2009」～	29名
12月20日(日)	阿賀野市立吉田東伍記念博物館コンサート 2009 TOGO Museum Ensemble 第11回演奏会 ～メモリアルな作曲家たち～	博物館共催事業 30名
2月16日(火)～3月14日(日)	阿賀野市所蔵近現代美術品展Ⅱ 「阿賀野市出身の愛郷の陶芸家 田村吾川の仕事」	博物館協力事業
3月21日(日)	第12回研究発表会 発表テーマ：新潟県北部の旧石器文化 発表者：小林弘氏(友の会会員)	30名
通 年	①パネル巡回展の実施	
	②他の文化団体との連携・協力	
	③学校教育への支援	
	④インターネットによる広報活動「友の会通信ウェブ版」の充実	

平成22年度事業計画

期 日	内 容	備 考
4月17日(土)	平成22年度阿賀野市立吉田東伍記念博物館友の会総会	
4月17日(土)	市民文化講演会 2010 佐渡の能楽と能舞台 講師：池田哲夫氏(新潟大学人文学部教授)	
5月22日(土)	阿賀野市立吉田東伍記念博物館コンサート 2010 TOGO Museum Ensemble 第12回演奏会 ～映画音楽の世界～ プレトーク「安田にあった思い出の映画館」白井皓一さん(友の会会員)	博物館共催事業
6月24日(木)	第3回『ビデオ講座 古典芸能シリーズ』鑑賞会(第4回以降随時)	サークル「花」の会企画
7月5日(月) ～6日(火)	初夏の研修旅行 史跡めぐり(1泊2日) ～千葉県銚子市 吉田東伍終焉の地と利根川水系を訪ねて～	
8月中旬	星空への招待 2010 ベルセウス座流星群観望会	
8月下旬	とんと昔を聞く会(特別編)	秋季に関連事業を予定
9月上旬	サロンコンサート Vol.8 ～ショパン生誕200年～	
10月中旬	秋の研修旅行 博物館めぐり ～奥山荘歴史館・胎内天文館・胎内昆虫館とワイナリー～	
3月	第13回研究発表会 発表テーマ：未定 発表者：未定(友の会会員)	
通 年	①パネル巡回展の実施	
	②紙芝居「吉田東伍の生涯」の巡回	
	③他の文化団体との連携・協力	
	④学校教育への支援	
	⑤インターネットによる広報活動「友の会通信ウェブ版」の充実	

平成22・23年度役員について(改選)

役 職	氏 名	備 考
会 長	長谷川 明 一	
副 会 長	信 田 久 栄	
副 会 長	百 都 政 弘	新
会 計 監 事	石 山 昭 而	
会 計 監 事	廣 田 康 也	
運 営 委 員	大 島 かほみ	
運 営 委 員	小 野 民 裕	
運 営 委 員	黒 坂 収	副会長より

役 職	氏 名	備 考
運 営 委 員	白 井 皓 一	
運 営 委 員	長谷川 大 八	
運 営 委 員	廣 田 正 博	
運 営 委 員	阿 達 十三子	新
運 営 委 員	小 林 弘	新
運 営 委 員	佐 藤 智 恵	新
事 務 局	小野里 澄 子	
事 務 局	田 中 洋 史	

平成22年度 収支決算書

(収入の部)

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	比較(決算-予算)	内 訳
繰 越 金	269,377	269,377	0	
会 費	350,000	321,000	△ 29,000	一般会費 2000 × 69 人 =138,000 家族会費 3000 × 26 人 =78,000 賛助会費 105,000
書 籍 頒 布 代	5,000	0	△ 5,000	友の会通信特別号 @500 地名を学ぶ人のために @300 吉田千秋 @80
雑 収 入	5,623	134	△ 5,489	利子
合 計	630,000	590,511	△ 39,489	

(支出の部)

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	比較(決算-予算)	内 訳
事 務 費	65,000	57,720	7,280	
・事務局費	30,000	26,334	3,666	スピーカー購入・振込み手数料等
・消耗品費	35,000	31,386	3,614	事務用品・用紙類等
通 信 費	80,000	44,260	35,740	「友の会通信」送料
印 刷 費	90,000	94,500	△ 4,500	「友の会通信」印刷費（めぐみ工房）
会 議 費	10,000	3,474	6,526	運営委員会・事務局会議等
事 業 費	254,000	168,386	85,614	
・TME コンサート	65,000	38,344	26,656	謝礼・昼食代・テーブル代等
・サロンコンサート	30,000	24,000	6,000	謝礼・昼食代・テーブル代等
・パネル巡回展	10,000	0	10,000	(開催なし)
・講 演 会	50,000	49,282	718	市民文化講演会（「天地人と揚北」） 講師謝礼・会場使用料等
・研究発表会	10,000	5,000	5,000	研究費
・研 修 旅 行	20,000	8,100	11,900	資料代等・バス代補助
・星空への招待	10,000	0	10,000	(中止)
・サークル活動助成	25,000	25,000	0	1 団体 10,000、20 名以上 15,000
・とんと昔ばなし	10,000	6,660	3,340	謝礼（2 人）
・ピアノ調律費	24,000	12,000	12,000	生家アップライトピアノ
積 立 金	100,000	100,000	0	記念事業積立金
予 備 費	21,000	0	21,000	
交 流 負 担 金	10,000	10,000	0	他団体との交流会費
合 計	630,000	478,340	151,660	

収入計 590,511 円 － 支出計 478,340 円 ＝ 差し引き 112,171 円（次年度へ繰り越し）

平成22年度 収支予算書

(収入の部)

(単位：円)

区 分	前年度決算額	予 算 額	比較(決算-予算)	内 訳
繰 越 金	269,377	112,171	△ 157,206	
会 費	321,000	350,000	29,000	一般会費 2000 × 70 人 = 140,000 家族会費 3000 × 30 人 = 90,000 賛助会費 10,000 × 12 人 = 120,000
書 籍 頒 布 代	0	5,000	5,000	友の会通信特別号 @500 地名を学ぶ人のために @300 吉田千秋 @80
雑 収 入	134	7,829	7,695	利子・寄附金
合 計	590,511	475,000	△ 115,511	

(支出の部)

(単位：円)

区 分	前年度決算額	予算額	比較(予算-決算)	内 訳
事 務 費	57,720	50,000	△ 7,720	
・ 事務局費	26,334	15,000	△ 11,334	事務連絡費
・ 消耗品費	31,386	35,000	3,614	事務用品、会員証、用紙類等
通 信 費	44,260	50,000	5,540	「友の会通信」送料
印 刷 費	94,500	95,000	500	「友の会通信」印刷費
会 議 費	3,474	5,000	1,526	
事 業 費	168,386	214,000	45,614	
・ TME コンサート	38,344	45,000	6,656	謝礼・昼食代・テーブル代等
・ サロンコンサート	24,000	25,000	1,000	謝礼・昼食代・テーブル代等
・ パネル巡回展	0	10,000	10,000	
・ 講演会	49,282	50,000	718	市民文化講演会 講師謝礼・会場使用料等
・ 研究発表会	5,000	5,000	0	研究費
・ 研修旅行	8,100	10,000	1,900	資料代・バス代補助等
・ 星空への招待	0	10,000	10,000	
・ サークル活動助成	25,000	25,000	0	1 団体 10,000、20 名以上 15,000
・ とんと昔ばなし	6,660	10,000	3,440	
・ ピアノ調律費	12,000	24,000	12,000	生家アップライトピアノ
基 金	100,000	50,000	△ 50,000	記念事業積立金
予 備 費	0	1,000	1,000	
交 流 負 担 金	10,000	10,000	0	他団体との交流会費
合 計	478,340	475,000	△ 3,340	

◎会費納入のお願い

■会費（年額）

- 一般（高校生以上）：2,000円
- 小中学生：1,000円
- 家族会員：3,000円
- 賛助会員：1 口10,000円

◎納入方法

- * 博物館受付で直接納入するか、同封の振込用紙をご利用下さい。
- * 会員証は、博物館窓口で納入の場合はその場で発行します。振込の方へは後日送付します。
- * 本通信と行き違いで既に会費を納入された場合はご容赦願います。
- * 新規会員も随時募集しています。会員の皆様からも募集チラシ等で P R いただければ幸いです。

□友の会伝言板

①「web版友の会通信」をご覧ください！

<http://wind.ap.teacup.com/togo/>

②「友の会通信2009」No.4(前号)に誤りがありました。

TOGO Museum Ensemble 第11回演奏会の開催日は、
12月20日(日)の誤りです。お詫びして訂正します。

③ 原稿を募集しています

友の会通信の「会員の研究ノート」「会員随想」「友の会伝言板」のコーナーへの投稿をお待ちしています。詳しくは友の会事務局までお問い合わせください。

最近特に想うこと……

友の会会員 百 都 政 弘 (ももつ まさひろ)

今年1月末、周囲の人のお世話になり助けられて命拾いをしました。阿賀野市消防、新発田病院及び家族等、皆様の協力で適切な対応をしていただき、この世に生きていられるのだと痛感しています。会員皆様の参考になればここに記します。

1月28日の朝、胸の辺りが少し苦しく背中が痛いので、勤め先に電話し休むこととしました。お医者さんに行くのも面倒だし、腰痛で整形外科医院から貰っている経皮鎮痛消炎剤（モーラステープ）を背中に貼り、昼過ぎまで布団で寝ていました。痛みも取れ全快したので、自家用車で掛かりつけのお医者さんに行って、状況を話し、心電図をとってもらい、結果を聞いたら、「少し狭心症の症状が見える。以前のものと比べると良くないが、それほど悪いというほどでもない。念のため、ニトロールを持って行きなさい」ということで、ニトロールは初めてだったので、その利用方法を聞いて帰宅しました。

家に着き、今日は休みもとったことだし、ゆっくり休もうと、また、布団に入って休みました。夕食の時間を女房が知らせにきましたが、今は寝ているのが最高であるという思いで、「食わない」と返事をし、そのまま眠ってしまいました。

午後8時頃と思いますが、胸が締め付けられ背中も痛くなり、ニトロールを口の中の舌に入れ様子を見ましたが回復せず、女房が変だと言って水原郷病院に電話してくれ、救急対応してくれる病院にと適切な指示をしてもらいました。新発田病院に電話し、状況を話したところ、「すぐに救急車で病院に連れてきなさい」ということになったようで、119番に救急要請し、午後11時過ぎに阿賀野市消防本部安田分遣所の救急車が迎えにきたので乗せてもらいました。救急車の中に入ると胸にはセンサーが取り付けられました。胸の締め付けられるような痛みと背中の痛みは続きました。救急車の中で測定したデータを救急隊員は新発田

病院と無線で交信して送り、新発田病院では、そのデータに基づき対応していたようで、対応は的確で素晴らしく感心させられました。

新発田病院に着くとすぐに循環器病棟4階の集中手術室（ICU、CCI）に運び込まれ、衣類は鉄で切られ、太股の付け根の辺りの毛は剃られて、胸にセンサーが取り付けられました。造影剤を打たれ、心臓の冠動脈が閉塞状況にあるということで、手首からカテーテルを挿入。ガイドワイヤー（細く柔らかい針金）を通して狭くなっている冠動脈を通過させ、ステント（金属製の網状のチューブ）を入れ、その中にバルーン（風船）を入れ、膨らませてステントを広げて固定し、冠動脈の拡張を確認し、カテーテルを抜き、1時間位の応急措置の手術を終えました。胸が苦しく背中が痛く、息も絶え絶えの状況にあったのが突然に治り、楽になり平常の状態となりました。

応急手術では、ステント2本で終わりましたが、他の冠動脈も狭くなっているということで、10日後に再度3時間余り手術を行い、ステントを全部で11本入れ、心臓を金属で覆いました。私の心臓も少しは強くなったのでしょうか？

阿賀野市消防本部安田分遣所の救急隊の的確な搬送、ICU・CCI設備を持った新発田病院、主治医の田辺先生ほかチームスタッフの皆様ののおかげで命永らえたことに感謝しております。入院、手術料金は700万円でしたが、日本の皆保険制度のおかげで30万円位の負担で済みました。最近、救急車をタクシー代わりに使って問題になっていますが、私は消防関係の仕事が長かったので、特に消防関係者は、一般住民に迷惑をかけられないということで、利用しないで病気が進行した人を何人か知っています。心臓、頭の病気は一刻を争う病気です。病院・救急車のいざという時の対応等を良く考えておきましょう。

佐渡の能楽と能舞台

新潟大学人文学部教授 池田 哲 夫 (いけだ てつお)

佐渡は能楽の盛んな島として知られている。年間20回以上行われる演能や現存する35棟の能舞台を目にすると、さらにその思いを強くする。

大正13(1924)年7月、佐渡を訪れた詩人で評論家の大町桂月は、歓迎会の席上で「鶯や十戸の村の能舞台」と詠んでいるが、佐渡の能楽の盛んなさまが心憎いまでに読み込まれている。

佐渡は、能楽の大成者世阿弥(観世元清)の配流の地として知られている。永享6(1434)年、時の將軍足利義教によって72歳の老齡でありながら、佐渡へ配流となった世阿弥の胸中は察するにあまりある。

世阿弥の佐渡配流について、詳しいことはわかっていない。1992(平成4)年、佐渡の郷土史家・故磯部欣三(本名 本間寅雄)が、資史料を博搜し、さらに念入りの実地踏査をもとに『世阿弥配流』(恒文社刊)を著している。この書で特筆すべきは、世阿弥が佐渡へ上陸した多田のみなどから、配処へと向かう小佐渡山脈を越える峠道「笠取峠」の発見のくだりであろう。長い間、謎とされてきた中世の小佐渡を超える交通のルート^①の解明がなされたのである。このことは、これまで佐渡の歴史の謎の部分として解明が待たれていたものだけに、大きな発見であった。

磯部は『世阿弥配流』で、配流の経緯、都から佐渡への道行き、佐渡到着後の足取り、配所での生活、世阿弥の帰洛説など、佐渡と世阿弥の関わりについて丹念に記述している。佐渡の名著といっても過言ではなかろう。

磯部の『世阿弥配流』は、『金鳥書』の克明な解説からはじまっている。『金鳥書』は、世阿弥が佐渡でしたためた小謡曲舞集^{くせまい}で、明治42(1909)年に地理学者の吉田東伍によって公にされたものである。『金鳥書』は都から佐渡へ向かう道中を記した「若州」「海路」。佐渡での様子を書き留めた「配処」「時鳥」「泉」「十社」「北山」など八編からなっている。世阿弥と佐渡との能楽の関わりは、『金鳥書』の中の「十社」の章に敬神のた

めに一曲を法楽するとある以外、全くででこない。世阿弥は直接島民に能の指導などをしなかったものと思われる。

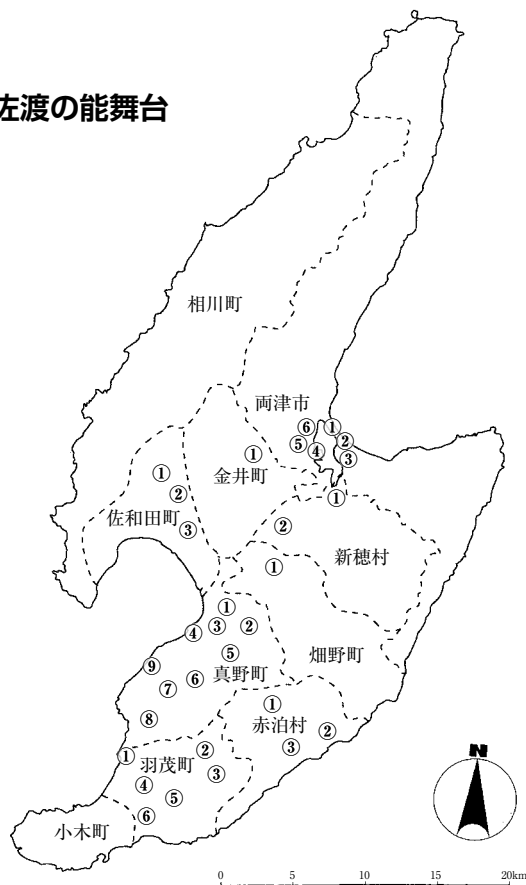
佐渡で能楽が盛んになるのは、慶長9(1604)年、佐渡奉行の地位にあった大久保長安が能師等を連れて来たことによるとされる。長安は甲州の能役者の出身のようである。そのときのことを『佐渡相川誌』に「大久保石見守殿樂舞を好み、和州より常太夫、空太夫二人を召す、其の外脇師、謡、笛、太鼓、大小鼓、狂言師、渡海山之内弥兵衛と云ふ処に住む。石見殿陣屋にも能あり、或は上相川大山祇等にもあり、正保二年四月五日より下戸春日社にて神事能あり」と記されている。

この記述から、長安によって佐渡に能座がはじめて移入され、神事能として島の中に定着していったことがうかがえる。能師は両太夫が中心であったが、衰亡後は旧両津市吾潟の本間能太夫がこれにかかわって佐渡の能楽の中心をなすようになった。

現在、佐渡には35棟の能舞台が存在しているが、かつては60棟近くもの能舞台が島内にあったといわれている。佐渡の能舞台をはじめて本格的に調査した若井三郎(故人)は、著書『佐渡の能舞台』(1978 私家版)で、佐渡の能舞台を形態的特徴から、本舞台が独立した能楽専用の独立能舞台(57棟のうち現存しているもの35棟)、普段は、解体、格納しておき、演能の際、組立て使用する組立能舞台(15棟)、神社の拝殿や、付属の建物を本舞台として演能にも用いられるようにあらかじめ考えて、特別にそのための施設を施してある兼用能舞台(16棟)、これまでのものに入らない、他の施設をそのまま臨時に能舞台として利用した仮設能舞台の4つに分けて、演能記録などをもとに詳細な調査を行っている。

若井によると、本格的な能舞台から、全く臨時的な舞台まで含めて演能のあった舞台(場所)は230か所以上にのぼっているという。現存している佐渡の能舞台の所在地を見ると(同表参照)、本

現存する佐渡の能舞台



両津市

- ① 諏訪神社(原黒)
- ② 住吉神社(住吉)
- ③ 本間家(吾湯)
- ④ 諏訪神社(湯端)
- ⑤ 金峰神社(上横山)
- ⑥ 熱串彦神社(長江)

金井町

- ① 羽黒神社(安養寺)

新穂村

- ① 牛尾神社(湯上)
- ② 熊野神社(武井)

畑野町

- ① 加茂神社(栗野江)

赤泊村

- ① 白山神社(上川茂)
- ② 春日神社(三川)
- ③ 徳和神社(徳和)

佐和田町

- ① 白山神社(山田)
- ② 二宮神社(二宮)
- ③ 八幡若宮(下長木)

真野町

- ① 八幡若宮(四日町)
- ② 大膳神社(竹田)
- ③ 総社神社(吉岡)
- ④ 諏訪神社(豊田)
- ⑤ 熊野神社(静平)
- ⑥ 大山祇神社(笹川)
- ⑦ 小布施神社(西三川)
- ⑧ 気比神社(椿尾)
- ⑨ 白山神社(大倉谷)

羽茂町

- ① 白山神社(小泊)
- ② 白山神社(滝平)
- ③ 白山神社(大崎)
- ④ 気比神社(神村山)
- ⑤ 草刈り神社(羽茂本郷)
- ⑥ 張弓神社(大橋)

間家所有の一棟を除き他のすべてが神社にあることがわかる。これが佐渡の能舞台の所在(所有)のうえからの特徴である。能舞台の多い理由を若井さんは次のように指摘している。

- ① 徳川時代、佐渡は天領であり、佐渡奉行が神事能を援助し能大夫に払い下げ米を与えて保護をしてきた。
- ② 春日・大山祇両神社をはじめ、各神社の定能(毎年祭礼に行う神事能)は島民の最大の娯楽であったことから演能について神社、氏子、能師共に熱心であった。
- ③ 能楽を発展させる中心の能座があった。最初佐渡へきた常太夫・奎太夫の絶えたあと、湯上の本間宝生座が代々能を支え、広め、指導してきた。
- ④ 佐渡人は芸能を好む。とくに能楽を愛し、島外へ修行に出た人が多く、熱心さのあまり破産した人もあったほどである。
- ⑤ 他国に比して、武士階級が少なく、島民がほとんど平等の立場で武士に代わって活躍できた。その上、対抗意識が個人間にもグループ間にも、また集落間にもきわめて強い面があった。それが能の質を高め、舞台を建て、その数を増加させてきたのではなかろうか。佐渡の能舞台は、本舞台が3間×2間のものなど

狭いものが多い。これをできる限り広く使用できるように、敷板の敷き方に工夫をし、立方が充分舞えるようにしてある。橋掛かりも複線の通路にして、脇正面側は普通の橋掛かりで、裏は通路用の橋掛かりとするいわゆる複式橋掛かり形式となっているものも多く見られるなど、実用的な舞台が多い。

島民の日常会話の中で、空を舞う鳶の勇壮な動きを「トンビの能舞い」というが、佐渡にはこうした能楽にちなんだ言葉が今なおいくつも生きている。島全体が、能楽と何らかの縁を持っているといっても過言ではなかろう。

老いた世阿弥は、許され都へ帰ったのか謎の多い部分である。もしかすると、佐渡の土になっているのではと考えると、それは佐渡と能楽との因縁なのかも知れない。この因縁を大事にしたいものである。

ところで、昨年は、吉田東伍による『能楽古典世阿弥十六部集』が刊行されて百年という大きな節目の年であった。この刊行により、本格的な科学的能楽研究が始まったと言っても過言ではない。

地元では、吉田は地理学者としてのイメージが強いと聞くが、本格的な能楽研究の生みの親としての吉田の功績もぜひ思い起こしていただきたいものである。

阿賀野市立吉田東伍記念博物館ミュージアムコンサート

TOGO Museum Ensemble 第12回演奏会 ～映画音楽の世界～

恒例のTME演奏会は、皆さんからのリクエストが多かった映画音楽を特集します。そして、今回初めて会員によるプレトーク「安田にあった思い出の映画館」も企画しました。「ムーンリバー」や「八十日間世界一周」など、映画音楽で甦る青春の思い出。懐かしい映画音楽の世界を、新緑の吉田東伍生家の日本家屋とともに楽しみ下さい。

日 時 5月22日(土) 15:00開演(14:15開場)

※開演前(14:30～14:50)に友の会会員・白井皓一さんによるプレトーク「安田にあった思い出の映画館」を行います。

会 場 阿賀野市立吉田東伍記念博物館 吉田東伍生家

入 場 料 友の会会員は無料。
会員以外の方も通常入館料(一般300円、小中学生150円)のみでご鑑賞いただけます。

出 演 TOGO Museum Ensemble(弦楽四重奏とピアノによるアンサンブル)

プログラム 映画「八十日間世界一周」よりテーマ、「ムーンリバー」(映画「ティファニーで朝食を」挿入歌)、
(予定) 「愛の賛歌」(映画「エディット・ピアフ～愛の讃歌」挿入歌)、「ダニーボーイ」(映画「メンフィス ベル」挿入歌)、
映画「シンドラーのリスト」よりテーマ、映画「戦場のメリークリスマス」より「メリー・クリスマス ミスターローレンス」ほか

サークルだより

白河荘を歩く会

例会 ー現地見学ーのご案内

5月例会 日 時：5月19日(水) 9:30～12:00
集合場所：阿賀野市立吉田東伍記念博物館
見 学 地：赤松城山

6月例会 日 時：6月3日(木) 13:00～16:00
集合場所：阿賀野市立吉田東伍記念博物館
見 学 地：新発田市(宝積寺館・香伝寺・蔵光館など)

7月例会 日 時：7月15日(木) 9:30～12:00
集合場所：阿賀野市立吉田東伍記念博物館
見 学 地：阿賀野市分田地区(分田館ほか)

※いずれも参加費100円(資料代)が必要です。
動きやすい服装でご参加ください。

“花”の会

第3回
『ビデオ講座 古典芸能シリーズ』
鑑賞会

『ビデオ講座 古典芸能シリーズ』(企画・発行：(株)紀伊國屋書店、製作：(株)ポルケ)の第3巻「入門・能の音楽」と第4巻「能「翁」」を研修室の大型スクリーンで鑑賞します。

日 時／6月24日(木)
13:30～15:30

会 場／阿賀野市立吉田東伍記念博物館研修室

活動への参加は、資料準備の都合上、前日までに友の会事務局(博物館内)へ電話(0250-68-1200)・FAX(0250-68-5016)・メール(y.togo@oregano.ocn.ne.jp)でお申し込みください。

編・集・後・記



▽サークル「白河荘を歩く会」で阿賀野市久保の八幡社を訪ねました。市の文化財にもなっている社殿と十二支の彫刻の素晴らしさに感嘆の声が上がり、時が経つのも忘れて自分の干支探しに興じました。地域の文化遺産を伝えてくれた先人に感謝しつつ、私たち友の会も未来へつなげる文化活動を展開していかなければと思った次第です。(H・T)

▽池田哲夫先生よりお忙しいなか市民文化講演会「佐渡の能楽と能舞台の要旨をご寄稿いただきました。厚く御礼申し上げます。

(友の会事務局)